

基礎演習 目的と日程

社会学科 村瀬洋一

(e-mail: murase@rikkyo.ac.jp)

1. 演習の目的

- 1) 批判的精神を持ち、真実とは何かを自分で判断できる能力を身につける
- 2) 社会学の「考え方」の習得 ー 目的の設定、仮説やモデルの作り方
- 3) 自分で研究テーマを設定し、調査と分析により成果を発表する能力の習得

2. 主な内容

1) テキストを用いて、社会学の基礎知識と、理論や仮説の作り方などの「社会学の考え方」を理解する。自分で理論やモデル、仮説をつくれるように。

テキストは各自で早急に購入すること。ネット上書店などで中古を安く買えば良い。

2) 文献検索法（雑誌記事索引等のデータベースによる文献リスト作成）や、発表の技法、資料の作り方などの「仕事の進め方」あるいは「知的生産の基礎技術」の全般的訓練。

3) データ分析実習とグラフ作成等の基礎訓練

4) マクロデータ（政府の統計など集計レベルのデータ）収集・分析プロジェクト

国ごと、都道府県ごとのデータを集め、社会の様々な特性を分析する訓練

3. 日程（予定 後期14回）

0921 1. 今後の予定と研究例の説明

0928 2. 自分の興味あるテーマと、興味ある新聞記事を発表

★記事をコピーする前に、必ず記事日付と名前を書くこと

1005 3. 『考える社会学』2章、文献検索法について

1012 ***** 全学休校日 *****

1019 4. 各種データベース、エクセルでのグラフ作り、各自の文献リスト作成

1026 5. 『考える社会学』3章、統計データ（マクロデータ）収集法の解説

***** 秋休み *****

★都道府県について47の数字を集める

1109 6. 『考える社会学』4章

1116 7. データ収集結果の発表

1123 8. 『考える社会学』5章（祝日授業日）

1130 9. 『考える社会学』6章

1207 10. 『考える社会学』7章

1214 11. グラフ作成結果の発表

1221 12. グラフ作成結果の発表

***** 冬休み *****

0111 13. 各班の分析案を発表

0118 14. 各班の分析案を発表

0204 最終発表会

社会調査実施能力は、主に調査法関連の科目で学ぶので、『履修要項』の社会調査士の説明を読み、関連科目を積極的に履修すること。また、2月に最終発表会をやるので、必ず予定をあけておくこと。

4. 演習に関するホームページと eメール

恒常的に eメールでの連絡をするので、立教メールを必ず見る。また、以下の村瀬ゼミページに最新情報を掲載するので見ること。

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase>

演習内容に関して質問等があれば、演習中の質問も大歓迎しますが、eメールを出しても良い。ただし、成績に関する質問や陳情はご遠慮ください。

村瀬の研究室は12号館3階です。面会時間 (Office hours: 木曜日 午後12:35-1:15) は研究室を開放しているので、質問などあれば予約なしで自由に来てください。研究室のドアに、村瀬の都合の良い時間がはってあります。ふだんは研究・教育活動のため多忙なので、来訪の際はメールか、研究室に電話をしてからの方が良いでしょう。

5. 社会学研究法の概説

5.1. 社会からデータをとるにはどのような方法があるか

- 1) 調査 – 社会学に多い
- 2) 実験 – 心理学に多い
- 3) 観察 – 人類学や教育学に多い
- 4) 内容分析 – content analysis: 文章や映像の内容を数量化して分析
- 5) マクロデータの利用 – 各種の統計年鑑や白書、総務省統計局ホームページ

<http://www.stat.go.jp> などを参照

『日本統計年鑑』の内容はすべてここに載っている

5.2. 社会調査の種類

表1 調査対象とデータ処理方法から見た社会調査の分類

調査対象	処理方法	
	統計的	記述的
全体	全数調査	
部分	標本調査	事例調査

注: 原・海野(2004, p26)より作成

問 街角での観察や、知人へのインタビューは、どのような問題点があるか

5.3. 仮説を作る

研究目的を明確にして、仮説を作ることが大切。

仮説の例 – 原因と結果の2変数を含む文を作る

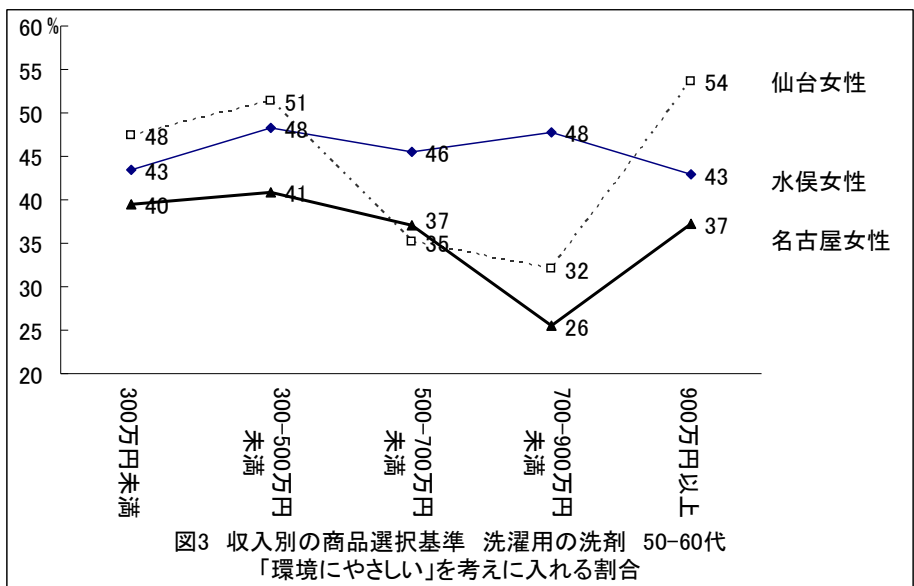
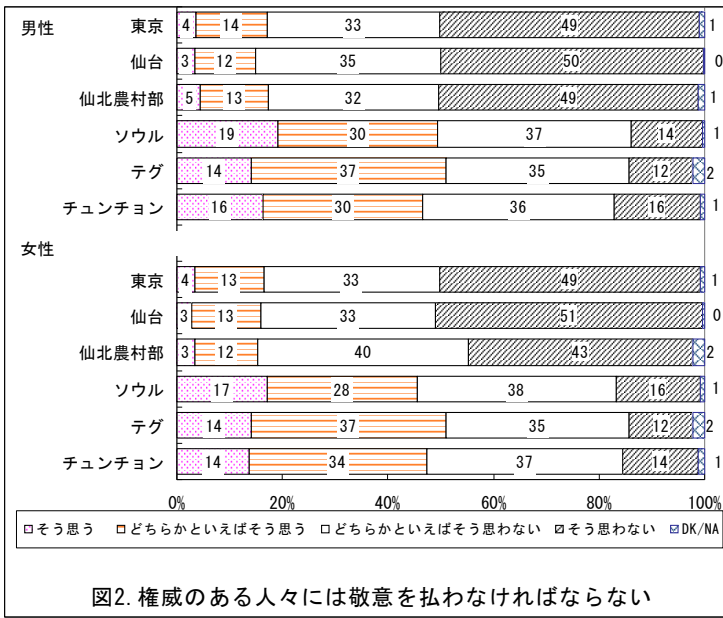
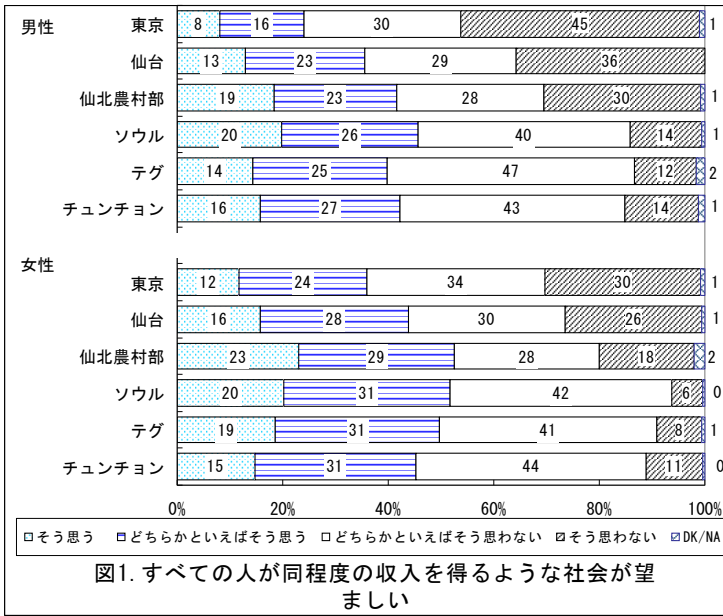
- ・農村部ほど平等を好むのではないか
- ・金持ちほど「環境にやさしい」商品を買うのではないか

次に、農村部、平等志向などを、どう測定するか考え、データをとる。

調査が終わりデータが完成したら、仮説にもとづいて分析する。

結果を、調査報告書、論文、本にまとめる。

5.4. 社会調査結果の例



5.5. 結論として何を主張するか

結論とは、結果のまとめでなく、分析結果をもとに、自分が何を主張するかが重要。社会の変化、今後の政策など。

現実には、調査データにもとづかない直感での分析や、ごく限られた対象での調査、ネットでかきあつめたデータでの研究も多い。トンデモ本もあるし、データのない無責任な評論も多いので、批判的精神を持って研究に接することが重要。

6. テキストと参考書の解説

テキストは講義中に随時活用するので、必ず購入すること。参考文献も、自分が興味を持てるものはできる限り購入し、自宅で読みたいときにすぐ読める状態にするとよい。

学生時代は贅沢はつつしむ一方、本代と食事代は惜しまないことをおすすめします。本代は知識を、食事代はあらゆる仕事の基礎となる体力を養うために必要です。

以下、★印は村瀬の解説。

6.1. テキスト

小林淳一・木村邦博. 1991. 『考える社会学』ミネルヴァ書房.

6.2. 参考書（著者名のアルファベット順）

- 赤川学. 2004. 『子供が減って何が悪い！』筑摩書房.
ボーンシュテット・ノーキ著＝海野道郎・中村隆監訳. 1990. 『社会統計学 ―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
文春新書編集部編. 2006. 『論争 格差社会』文藝春秋.
中央公論編集部編. 2001. 『論争・中流崩壊』中央公論新社.
ロバート＝C＝クリストファー. 1983. 『ジャパニーズ・マインド』講談社.
★外国人による日本社会論の中ではとてもよくできている。
土場学編. 2004. 『社会を“モデル”でみる ―数理社会学への招待』勁草書房.
原純輔. 1981. 「階層構造論」. 安田三郎・塩原勉・富永健一・吉田民人編. 『基礎社会学4：社会構造』東洋経済新報社.
原純輔編. 2002. 『流動化と社会格差』ミネルヴァ書房.
原純輔・盛山和夫. 1999. 『社会階層 豊かさの中の不平等』東京大学出版会.
原純輔他編. 2000. 『日本の階層システム』1～6巻. 東京大学出版会.
★1995年SSM調査の分析結果をもとにした論文集。
原純輔・海野道郎. 2004. 『社会調査演習 第2版』東京大学出版会.
★社会調査法について、巻末の調査票見本などよくまとまっている。
橋本健二. 2018. 『新・日本の階級社会（講談社現代新書）』講談社.
橋本健二. 2018. 『アンダークラス（ちくま新書）』筑摩書房.
橋本健二. 2020. 『中流崩壊』朝日新聞出版.
林信吾. 2005. 『しのびよるネオ階級社会 ―“イギリス化”する日本の格差』平凡社.
依田高典. 2016. 『「ココロ」の経済学 ―行動経済学から読み解く人間のふしぎ』ちくま新書.
飯尾潤. 2013. 『現代日本の政策体系 ―政策の模倣から創造へ』ちくま新書.
平野浩. 2007. 『変容する日本の社会と投票行動』木鐸社.
本田由紀. 2009. 『教育の職業的意義―若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房.
今田高俊. 1989. 『社会階層と政治』東京大学出版会.
稲葉陽二. 2011. 『ソーシャル・キャピタル入門 ―孤立から絆へ』中公新書.
石田浩編. 2017. 『教育とキャリア [格差の連鎖と若者]』勁草書房.
蒲島郁夫. 1988. 『政治参加』東京大学出版会.
鹿又伸夫. 2001. 『機会と結果の不平等』ミネルヴァ書房.
苅谷剛彦. 2001. 『階層化日本と教育危機 ―不平等再生産から意欲格差社会(インセンティブ・ディバイド)へ』有信堂高文社.
吉川徹. 2018. 『日本の分断 ―切り離される非大卒若者(レッグス)たち』光文社.
小林淳一・木村邦博編著. 1997. 『数理の発想で見る社会』ナカニシヤ出版.
三船毅. 2008. 『現代日本における政治参加意識の構造と変動』慶應義塾大学出版会.
三浦展. 2005. 『下流社会 ―新たな階層集団の出現』光文社新書.
★あとがきにあるようにデータは偏っている。分析も多くは不適切だが、おもしろい部分もある。

- 宮野勝. 1986. 「誤答効果と非回答バイアス：投票率を例として」. 『理論と方法』 Vol.1 No.1:101-114、ハーベスト社.
- 村上泰亮. 1984. 『新中間大衆の時代』中央公論社.
- 麦山亮太. 2017. 「職業経歴と結婚への移行 —雇用形態・職種・企業規模と地位変化の効果における男女差」. 『家族社会学研究』第29巻第2号：129-141.
- 村瀬洋一. 2006. 「階級階層をめぐる社会学」宇都宮京子編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房.
- 永吉希久子. 2020. 『移民と日本社会 —データで読み解く実態と将来像』中央公論新社.
- 中野雅至. 2006. 『格差社会の結末 富裕層の傲慢・貧困層の怠慢』ソフトバンク新書.
- 中村高康・三輪哲・石田浩編. 2021. 『少子高齢社会の階層構造1 —人生初期の階層構造 (シリーズ少子高齢社会の階層構造 1)』東京大学出版会.
- ★2015年SSM調査の研究成果
- 中澤渉. 2013. 「通塾が進路選択に及ぼす因果効果の異質性 —傾向スコア・マッチングの応用」. 『教育社会学研究』第92集：151-174.
- 直井優他編. 1990. 『現代日本の階層構造』第1～4巻. 東京大学出版会.
- 大竹文雄. 2005. 『日本の不平等』日本経済新聞社.
- ★橋木に反論し日本は平等だとしている。
- 大竹文雄. 2010. 『日本の幸福度—格差・労働・家族』日本評論社.
- レイブ・マーチ著=佐藤嘉倫・大澤定順・都築一治訳. 1991. 『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社.
- 佐藤香編. 2017. 『ライフデザインと希望 (格差の連鎖と若者)』勁草書房.
- 佐藤俊樹. 2000. 『不平等社会日本 —さよなら総中流』中央公論新社.
- 佐藤嘉倫他編. 2011. 『現代の階層社会』1～3巻. 東京大学出版会.
- ★2005年SSM調査の分析結果をもとにした論文集。
- 佐藤嘉倫・木村敏明. 2013. 『不平等生成メカニズムの解明 —格差・階層・公正』ミネルヴァ書房
- 盛山和夫他. 2005. 『「社会」への知 現代社会学の理論と方法 上下巻』勁草書房.
- 盛山和夫. 2011. 『経済成長は不可能なのか—少子化と財政難を克服する条件』中央公論新社.
- 盛山和夫他編. 2011. 『日本の社会階層とそのメカニズム —不平等を問い直す』白桃書房.
- ★階層に関する最新の分析結果をまとめた論文集。
- 盛山和夫他. 2015. 『社会を数理で読み解く —不平等とジレンマの構造』有斐閣.
- 数土直紀. 2010. 『日本人の階層意識』講談社.
- 数土直紀. 2013. 『信頼にいたらない世界 —権威主義から公正へ』勁草書房.
- 数土直紀・今田高俊. 2005. 『数理社会学入門』勁草書房.
- 曾良中清司. 1983. 『権威主義的人間 —現代人の心にひそむファシズム』有斐閣.
- ★権威主義研究について分かりやすくまとめた良書。
- 橋木俊詔. 1998. 『日本の経済格差』岩波書店.
- ★所得や資産の格差を分かりやすく解説した新書。近年の日本社会は先進諸国の中でも格差が大きく、経済的に平等な社会とは言えないと主張している。
- 橋木俊詔. 2006. 『格差社会 何が問題なのか』岩波書店.
- 田辺俊介. 2011. 『外国人へのまなざしと政治意識 —社会調査で読み解く日本のナショナリズム』勁草書房.
- 田辺俊介. 2019. 『日本人は右傾化したのか —データ分析で実像を読み解く』勁草書房.
- 谷口尚子. 2005. 『現代日本の投票行動』慶應義塾大学出版会.
- 谷岡一郎. 2000. 『「社会調査」のウソ —リサーチ・リテラシーのすすめ』文芸春秋.
- ★世間一般の調査の問題点について分かりやすく解説した新書。
- 谷岡一郎, 仁田道夫, 岩井紀子編. 2008. 『日本人の意識と行動：日本版総合的社会調査 JGSSによる分析』東京大学出版会.
- 富永健一. 1979. 『日本の階層構造』東京大学出版会.
- 友野典男. 2006. 『行動経済学 —経済は「感情」で動いている』光文社新書.
- 筒井淳也. 2015. 『仕事と家族 —日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中央公論新社
- 筒井淳也他編. 2016. 『計量社会学入門 —社会をデータでよむ』世界思想社.
- 和田英樹. 2006. 『「新中流」の誕生 —ポスト階層分化社会を探る』中公新書.
- 山田昌弘. 2021. 『新型格差社会』朝日新聞出版社.
- 山口二郎. 2004. 『戦後政治の崩壊 —デモクラシーはどこへゆくか』岩波書店.
- 山口一男. 2017. 『働き方の男女不平等 —理論と実証分析』日本経済新聞出版社.
- 安田三郎. 1971. 『社会移動の研究』東京大学出版会.
- ★日本社会の開放性に関する代表的研究。
- 安田三郎・海野道郎. 1977. 『改訂2版 社会統計学』丸善.
- 安田三郎・原純輔. 1982. 『社会調査ハンドブック (第3版)』有斐閣. 2200円.
- 寄本勝美. 2003. 『リサイクル社会への道』岩波新書.
- 与謝野有紀編. 2006. 『社会の見方、測り方 —計量社会学への招待』勁草書房.
- 和田秀樹. 2006. 『新中流の誕生』中央公論新社.

7. 社会調査士資格について

調査と分析の能力のある人に対して資格を与える制度があります。単位を取るだけで資格取得できますが、実習を真面目にやれば、現実社会を調査し分析する能力が身につく、自分の訓練のためにはとても良いので、履修要項を見て積極的に取り組むと良い。

8. 注意点

やる気のある人ならば誰でも歓迎です。最後までゼミをやり直し卒論を書いてください。バイトやサークル等をゼミよりも優先することはないように。他学部を含め、他のさまざまな講義も積極的に受講して視野を広げ、社会統計学の基礎訓練や情報処理、英語なども身につけておいてください。

また毎日、新聞やテレビニュースを見て、様々な雑誌に目を通すなど、自分の世界を広げる努力をしてみてください。大学外の、現実の社会と接する努力をすることを、とくにおすすめします。

遅刻や無断欠席は厳禁!欠席する場合は、必ず事前にメール等で連絡をすること。
テキストは早急に買うこと。学術書は、普通の書店にはあまりない。

9. 成績評価

発表の成果と討論の参加具合、課題によって決定する。課題の内容が充実し、とくに、自分自身の考えを豊富に書いていた人を評価する。討論に積極的に参加し、演習の発展に貢献した者、良い質問をした者は記録し高得点を付ける。発表内容が良かった者も、もちろん高評価となる。遅刻や無断欠席は減点する。

10. 引用法と盗作について

引用と盗作は違うものである。引用は自由だが、必ず引用元を書かなくてはならない。レポートや論文作成の際に、引用元を書かずに引用すれば、盗作したことになってしまうので、十分に注意すること。最近、ネット上の文章をそのままコピーしてレポートで使う例も増えているが、これは泥棒と同じで、完全なルール違反である。

他人の文章を、自分の文章であるかのように書くと盗作になるが、悪気はなくても、引用元を明示せずに盗作になっているものが時々見られる。レポートや卒論等で、他人の文書を引用するときは、必ず引用部分を「」でくくり、引用の前に、引用元を書くこと。それ以外の形式で引用してはいけない。また、必ず「引用元」を明示すること。引用元を書かずに引用すると、盗作したことになるので、著作権法に反し、学問上、重大なルール違反となる。引用は自由だが、盗作してはいけない。なお他人の文章を引用するときは、山田(2006: p.27)によれば、「〇〇」である、などのように、必ず引用元を先に書くこと。

★文献リストの形式 ― 著者名と発行年を必ず最初に書く。発行年は半角数字で。その後、「論文名」「本や雑誌名」と発行所を書くこと。論文名は一重かっこ、本や雑誌名は二重かっこを使う。上記の参考文献や、テキスト巻末の文献リスト形式を参照。

発表や資料作成については、第三者が読んだ時に内容が伝わるために、何を工夫すれば良いか、よく考えることが重要。立教大学の大学教育開発・支援センター作成の

- ・ Master of Writing (レポートの作成)
 - ・ Master of Presentation (プレゼンテーションの準備)
- の内容を理解する(web上に資料あり)。

11. ネット上の情報について

基本的に、ネット上の情報や、ネット上の事典、ウィキペディア、各種ブログやネット上データは、「ガセネタ」も多く信憑性が低い。個人が趣味で作った文章で、正確なチェックはなく、いかげんで信用できない情報が多い。また、すぐに消えてしまう情報も多いので、研究において使うべきではない。必要な情報は、本として出版されているものから引用すること。本として出版されたものは、編集者のチェックもあり信用度は高い。

また、インターネット上のグラフや画像や写真などを使用すると盗作になるので、やってはいけない。例え引用元を示していても、デザインの無断使用となるので著作権法違反であり、盗作である。泥棒をしてはいけない。他人が作った写真やグラフは、絶対に使わないこと。グラフなどは、元の数字を使って、自分で作り直すこと。

多くの場合、最新のデータは本や統計資料となっている。データを調べるときは、必ず図書館へ行くこと。データ検索をネットのみですませることは、絶対にしてはいけない。図書館の参考室には、各種の事典や図鑑、数十冊からなる百科事典もある。まず図書館できちんとした百科事典の索引を見て、使ってみると良い。百科事典を馬鹿にしてはいけない。なお、信用できる統計データも、ネット上に少しはあるが少ない。これについては、村瀬ゼミホームページの「文献や統計リンク集」などを見る。また、調査データについては、立教大学のデータアーカイブや、SSJデータアーカイブなどを見ること。

12. 文献検索について

立教内LANに接続されているパソコンであれば、無料で使えるオンラインデータベースが各種ある(あるいはVPN接続をして立教のイントラネットへのアクセスをする)。**図書館ホームページ**の解説をよく読むことが重要。学術雑誌内の目次情報や、新聞記事検索(学内のみ)が可能。まずは、以下を使いこなすとよい。

- ・ 国立国会図書館ホームページ 「雑誌記事索引」
 国会図書館サーチ → 「記事・論文」ボタン
- ・ サイニイ (CiNii Articles 論文情報ナビゲータ 学術雑誌目次等)
- ・ Google Scholar

学会が出している学術雑誌を読むことは重要。新しいものはデータベースに入っていないしネット上にないので、必ず紙の目次を見ること。目次情報のみの検索が多いので、本文は図書館で入手する。日本社会学会が年4回出す雑誌は『社会学評論』である。その他、『社会心理学研究』や数理社会学会『理論と方法』などを手に取ってみるとよい。

その他、村瀬ゼミホームページの目次下にある「文献や統計リンク」をよく見ること。

13. 新聞記事検索について

立教大図書館ホームページの「データベース」下にある詳細検索をクリックして、各種の「オンラインデータベース」を使ってみること。

<https://library.rikkyo.ac.jp/search/researchtool/>

必ず、各社のデータベースを使うこと。まずは朝日新聞や読売新聞などの記事検索を試してみる。無料のものは検索結果が限られる。なお、ライセンス契約上、同時使用人数が限られているので、**使用後は必ずログアウトをする**。

池袋図書館2階に、PCヘルプデスクがあるので、使い方に自信がない時は質問するか、データベースのマニュアルなど借りるとよい。

記事検索に関する課題

各社の記事データベースを使う。最近のものでなくて良い。この数十年について検索すること。好きな言葉を使い検索すれば良い。

何か一つの記事をダウンロードして、人数分を印刷する。印刷前に、新聞名と日付は、必ず書く。あるいはCanvas掲示板に、記事ファイルをアップすること。記事の要約と、内容への自分の意見を、第2回ゼミにて口頭で簡単に発表すること。

14. 文献リストの作成

上記の雑誌記事索引やサイニィの他、JSTORなども使って、好きなテーマで検索し、自分の研究に必要な、文献リストを作成する。『社会学評論』や『社会心理学研究』などの最新号も、必ず図書館で現物を手に取って、目次を見ること。

本文をすべて集める必要はなく、読むべき文献の候補が良い。文献リストの形式は、上記のものを参考に、必ず、著者名と発行年（半角数字）を最初に書く。論文名は「」、雑誌名や単行本は『』で囲む。

掲示板に、自分の研究テーマと文献リスト（10本以上）を、第4回の開始前までに書き込むこと。また、その他、ゼミでやりたいことや、ゼミへの意見などあれば自由に書く。

2023夏の課題 基礎演習

橋本健二『中流崩壊』（朝日新書）。朝日新聞出版。

批判的精神を持って読むこと。内容のどこが問題かについて、自分で考えた上で文章を書くこと。A4用紙に横書きで1,600字程度を書き、Canvasの課題提出機能でファイルを提出する。なお、冒頭に書名と自分の名前を書く。